

【23_129市況メルマガ】暗号通貨取引大手バイナンス問題に学ぶリスク管理

〇〇さん

こんにちは、クロです。

今日は予定していたメルマガと差し替えて、こちらのニュースについての所感と

トレーダーとして考えるべき『リスク管理』の在り方について考えて行きたいと思います。

▼(ブルームバーグ)バイナンス、ビットコイン引き出し再開 混雑で一時停止後 ▼

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-05-08/RUBHFXDWX2PS01>

暗号通貨取引最大手のバイナンスが二度にわたる大規模な資金移動と、一時的なBTCの引き出し停止を行った事で

米当局の規制、罰則を負うリスクが高まってきました。

先日も、暗号通貨取引所としては2番手の規模であったFTXが破綻(メルマガ【092】通目で詳しく取り上げました)

今後、国際的な金融問題として規制が強化されていく可能性が高く、今度実施されるG7会合でも、この件については話し合われることが決まっているとのことです。

そもそも、暗号通貨やFX等の金融商品取引を日本国内で行うには、金融庁の許認可が必要で、ブローカー側は顧客資産の(信託)分限管理が義務付けられています。

そのような中で、バイナンスなどの国外取引所(FXの海外ブローカーも同様)は、金融庁の認可を取ることなく日本の顧客を集めているので

再三金融庁から警告を受けていながらも、それを無視している状態が続いています。

一時は通貨に代わる決済手段として、暗号通貨が期待されたこともありましたが

実体としては一種の「商品取引」であり、結局最後には「換金して差益を得る」ことが目的の投機対象にしかありませんでした。

今後、暗号通貨の取り扱いがどうなっていくのかは分からないことも多いですが、少なくとも罰則規定が厳しくなり

僕は、規制に置かれた中で細々と取り扱われる先物商品の一つにおさまる可能性が高いと考えています。

■ 暗号通貨問題から学ぶ、トレードにおける『リスク管理』

この問題は、暗号通貨の世界に限定された「対岸の火事」ではありません。

僕も含め、多くのトレーダーが国外ブローカーを活用したハイロットトレードも行っていますが

これにいつ国内の規制による縛りが強くなっていくか分からないし、その前にブローカーが「飛ぶ」可能性だって否定できないわけです。

(実際、Twitterを見ている人はご存知のように、営業実態の無いブローカーに資金を預けて元金ごと出勤を拒否されたケースも、散見されています)

僕らトレーダーとしては、常にこのようなリスクが身近に在る事を念頭に置いたうえで

- ・特定のブローカーに預け入れる資金を限定、分散する
- ・FXはあくまで種銭作りを目的とし、大きな資金運用は他の投資に分散する(僕の場合は現在のところ、株式投資がこれにあたります)

こういったリスク実体を理解する事に努めながら、自分なりに出来るリスク管理策を考えて実践する事が大事だと考えます。

今回の件も、それを考えるキッカケとしてもらおうと良いと思います。